

# Red sail covered the water to Akaho (Seto inland sea)

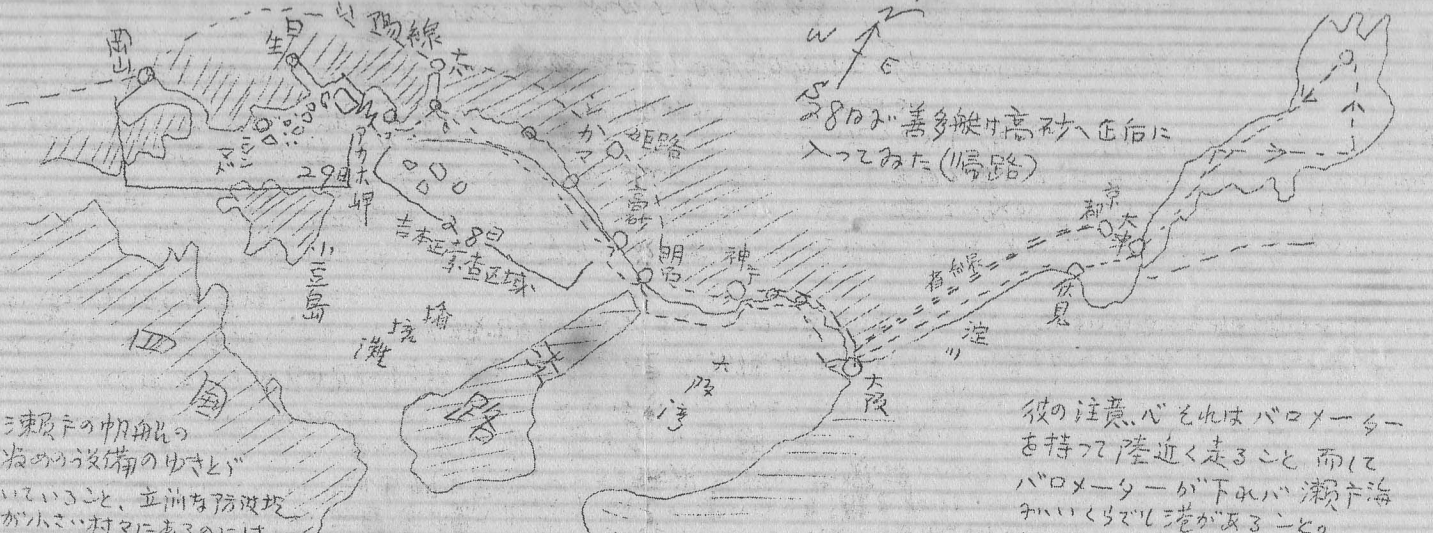
既報の通り、Y.C. 善多善多君は red sail の十=尺船を操って七月二十日夜伏見港トラックで、次で淀川を

大坂に出て、榊橋に一泊、櫻島から甲子園香櫨園を通り、神戸港に一泊、強風を肩して西走、淡路岩屋に入港せんとしたが潮  
流強く明石入港ドブの様になり一泊して、24日高砂に向ふ途中強風と大波に難航、断り同港に入港、25日、天候悪く  
一日滞在、26日朝引き汐の期を失ひ正午赤標へ出発、数里の津りはり、灘を乗り切つて赤標岬、午後四時着、海岸の  
砂の上で一泊を明し、27日、大型帆船の出帆を見念におろし強風と戦ひ、牛窓港に向ふ。このコースは琵琶湖で雲つば  
海津あたりの岩の出た岸ばかりで、山が迫つて陰な海で島は多いが、明朝は一つしな。潮が東に流れ西風と来るとは  
一里の close hauled の四時前しかつておる。天候は悪く、しどろもろの西風を乗つて高砂へ引きあつた。

筆者は前記の余り、28日、29日、同君の迎撃する地点を往復60里、散船乗船を乗って探し出されたあとの港々で、同君の動静を  
船食、地方人まき、その堅実な心、細心、心も機も見るに敏な頭脳は一言ならず驚いて、終りにあつた船頭達の語り  
こまれば、筆が高くなる様な気持であつた。

琵琶湖を出る時四人であつた同行を神戸で見つめて、ブイを放り付けて行つた彼の気持は、Gの心を征服する意気そのものだ。  
同時に家を出て途中で別れるなど、日本精神、民族意識がせきを許さない。家運傾いて家が里へ帰るに等しいではないか。  
これに三はを理て自家へ迎撃するナド、武士道 Yachtsmanship に戻る。し、意見を異にするに至れば、船では自らいやく  
自信がなくなつたのだから、予定港へ先行して友の船の来るのを待つ可きで、海岸をつたつて、保衛し、激奮して、ツイて行く可  
きである。この信念のなないものが、この帆走遠走に加はる事が初めから間違つておる。

筆者はアルプス登山中足を踏むおし谷おちちと、最後のロープを生命をかけた alpinist が先行の友を引ひき下り込む  
を知らず、自らポケットナイフをさし "Tell mother how it was!" の語を残して、生命のロープを断つた話を  
思ひ出して、ア、とた、そう想ふ!! 許さず、参考航行圖を同各記することませう。



彼の注意、それはバロメーター  
を持って陸近く走ること、而して  
バロメーターが下れば、瀬戸海  
がいくらでも港が深ること、  
このぬらり所は、実地を走つて見て  
其の真なることを知つた。  
Small boat であつて、自重を  
避難出来るのである。

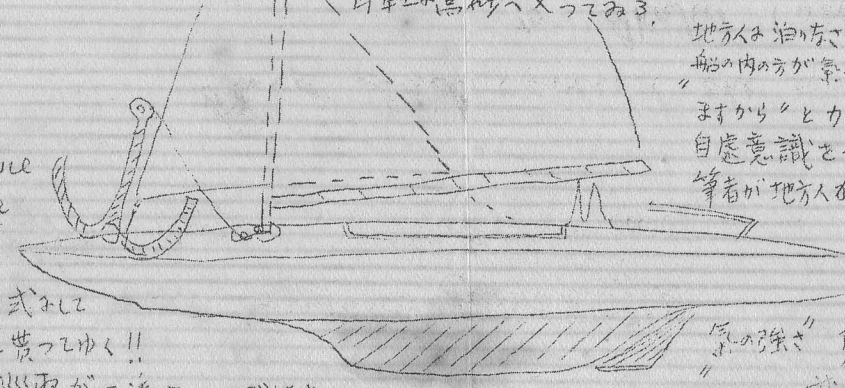
24日 25日は300枚の  
る本 mast 船で、避難して  
おる位の風と波である。其時彼は  
自重を、高砂へ入つておる。

瀬戸の帆船の  
ぬらり設備のゆさどい  
いて、立派な防波堤  
が小さい村にあるのには  
驚いた。  
中途洋パナ船より十=尺帆船の  
Half decked の方がよさそう  
である。

地方の漁師と云ふのは、食事やおもてなし  
船の内の方が氣持です。船は残した食糧品があ  
り、まからりと力強く、帆走遠走人の獨立自尊  
自覚意識を最後迄闘ひ取つた所は、港々で  
筆者が地方人から聞いて、涙を催す程うれしかつた  
ことである。

#7 マリン  
Submarine  
Jolle  
ヨーレ  
デモ作つて

air tank 式にし  
船を覆つて、費つてゆく!!  
瀬戸内海巡遊が、一番よいのでは、おいか  
錨は大きなものを持つて行なせ!!

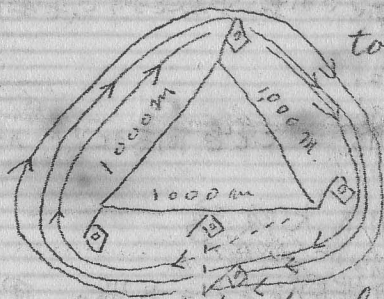


風の強さ 或は流れる精神  
武士道 Yachtsmanship  
お、いよいよ、おもしろい

# Sailing Race Arrangements.

between K.S.C. and B.Y.C.

1. the day appointed - - - - - on 6th (sunday) Aug. 1933.
2. time of start - - - - - at 2.00 P.M.  
(which subjects to the weather conditions)
3. rules - - - - - Y.R.A rules.
4. Racing Committee - - - - - 3 men assisted by flag stuffs  
one from K.S.C.  
one from B.Y.C.  
and the other from Y.R.A of Western J.  
or K.S.C.
5. Vessels - - - - - International A class  
(which are to be drawn  
lots on the day of race) 12 footer dinghies (ten vessels)  
by toss.
6. skipper - - - - - 10 men; 5 men each club.
7. course - - - - - triangular 3,000 metres; 3 rounds  
totally 9,000 metres, as follows



notes; marks will be; mark boats  
anchored, one watcher in  
each boat; or flags;

8. points - - - - - the 1st arrival - - - 10 points  
the 2nd " - - - 9 "  
the 3rd " - - - 8 "  
and so on  
the tenth " - - - 1 "

(if any vessel not complete all rounds  
or disqualified, it worth while no points)

Make a sum; a club getting more  
points than the other will be Winner

This race will be sailed on Lake Biwa and on Kobe coast  
respectively; every other year;  
when race is to be sailed on the Kobe Coast, 16 footer  
dinghies (as K.S.C. have now) are used.

By exception, this summer, Both club are expected to  
call each other (B.Y.C. will call K.S.C. on 27th Aug. or after that)  
day.

Names of skippers are Expected to be wrote to each other  
- in fortnight -  
K.S.C. = Kobe sailing club. B.Y.C. = Biwako Yacht club.

水曜日は神戸外人倶楽会と書いたが火曜の募集にて水曜日の銀行におき  
暫くすると大阪のBrown氏から電話がかいつて 16日 30日 23日 2cup  
raceがあるので来湖出来ぬ。 8月6日なら空いてゐる 其外は駄目だ とのこと。  
それで相談する時間がなから all right と云つて回答した。  
大毎からCupを寄贈して下さることとなつて北澤氏と毎度ながら一方ならぬ力添  
へを賜つた次第である。

Raceが出来るといふかは9日か判らなかつたので arrangements は持つて  
行かなかつたので今日 Brown と折會した程度で下記の文と共に別紙  
arrangements の prints 10枚同封して Brown 氏宛に送つて居いた。  
彼等の rules の理解程度は昔からで相違ないものであるから次の日曜日から急いで  
合せて上田杯 race と共にやりたいと思つてゐる サボウイをせぬのは譲られ  
んて

Brown 氏への手紙 (Broken といふ中口一と思つてゐる)

Mr Brown  
for the Kobe sailing club.

12th July 1933  
Naia.

Dear Sir,

Many thanks for your kindness to accept our  
untimely offer to sail a race between your club  
and ours.

We herewith enclose a plan of race  
arrangements, of which we are ready to re-plan,  
according to your desires or advices as you  
please. If you are good enough to comply  
with us, these prints are readily — for your  
convenience — to be divided among your  
members

We are much obliged with you,  
waiting for the golden day of seeing you  
on the Lake Biwa.

I remain,

yours truly

M. Yoshimoto.

For the Biwako Yacht Club.

# Notes aweather (side)

◇ 上田 manager からの提案 (寄稿 文責筆者等)

1. 上田杯に副賞: 昨年度上田盃レース 優勝艇 *Sailin* 号に副賞(4500)を附します。使途は同艇クルーで適当に御考え下さい。例へばヨット視察に同好都市又は地方に行つて頂くとか、使途です。勿論費用の一部として頂く訳で、クルー全貸又は代表者が行かれるでしょう。他によい使途があれば適宜にやって下さい。将来モット増加に海外へ行つて頂くようにするには一考下さい。一寸夢みたいナことですが
2. スキヤキ會 六月廿五日ノコト  
會費は一円壹日持参ノコト。みなさんハウスへの送上手務所へ寄つて下さり色々ものを持参して行って下さい。デスナ
3. 魚釣道具1件 ウツリ道具を5組購入しました。土曜日の息から泊る人はオカズを釣上げなさい。鯉、鮒、鮎、何人でもビワコに居んで居るのでお好きなものを! 使用料一回5Senとし、これで補修費維持費にあてます。サボリ数が増えます。アングリング Contest Cup を誰か出して下さい。今から練習しておけ下サイヨ。

# Notes a-lee

◇ VEDA Cup へ向つて進軍備のこと。

種々準備の爲め遅れましたが、愈進軍命令が上田君から下りました。ソレデ次の実行にとりかかります。

- ① lan の dynamical sail 完成 + rigging の加勢をやること。D.S. の本能がなつて、この帆を折れを見れば仕事の基礎的体験がなつて、各艇の rigging が決まらぬ。ソレハ sail 改作か Handicap をどうつけたかである
- ② レール 布設作業完了のこと、上田君はこの上中層の毛布を本買ふか備用材か作配慮下さることを仰頼して下さるが、目下の状態では lan low ---- は水をオガメタイ様子である
- ③ sail については 6月18日 午後ハウスで一同協議に決まることが 6/25日の方には引いて

- A.) lan のみ 既製帆で どの帆 race をやるか
  - B.) 旧帆を lan の plan 作り第一に (レース前に) 改作に四艇同一帆型におか(ソレハ九大のレース) 上至的作業
  - C.) lan low を D.S. 型にするか (key lin. は従前通り参考のこと)
  - D.) 本年のレースは (A) 案でやって key lin. の帆はマダ新らしく布上等だから D.S. との比較上、保存に九大のレースは新調セイルを作るか
- ◇ 6月18日 午後ハウスで一同協議に決まることが 6/25日の方には引いて

(コ・コンテ下サイ) その日 6月18日は早朝から key lin を進水 rig に lin 旧帆 key は lan の D.S. を rig して必ず試走すること、かかる後 materials (判新資料) あり VEDA 盃 race の schedule を決定します。Handicap は鈴木書記長に於いて後日 計算基礎案公表アリアン、本件宮崎兄協力願ひます。

- ④ Steering Man は各艇にて自由決定のこと、Best member でやって下さり 九大対抗の練習をさせようオツモリで。次回から一人一回主義で抽籤式組合せ方法にします。本年九大が有りますから中上層
- ⑤ VEDA レース中他の會費で十=四艇レースを併行します、全貸水へのモットーをフリガザス認<sup>ガ</sup>です。B.Y.C. の一ツの誇りです。今度の大会レース中全クラブの active な空気は榮耀の一流の Dull クラブと比較になりません。ソレハ Taste for Boat & Boating の王道をミナが歩んできた賜である同慶に堪ません。unpractical carsman の多い日本汽船界が、何んかと考へてくれれば、ホエスポートの高場に資する所多りでせう。日本汽船協会の幹部も我等を着眼してくれて、呉々々の誇言とのみは思はなつてせう。我々はホエスポートを家柄持つて帰らオツモリに船に入る程、水と風のため精進して来ました。又これから同様努力するのに衰りありません。60才なつてミナ元気で大会レースをやろう。白く船引いて-----金のこして6米8米買つてくれ給へ。サモアレバ、大会レース中、Handling したい欲望を抑へて常を添せよ。審判をして下さった中塚 富田 上田 宮崎の諸君には一同深謝する外ありません。6/25日には No.2 修理出来ませうから帆走にやつて下さい。

◇ 同大. 名譽大 Yacht race の役割は西部協會鈴木書記から依頼された通りですがお出でならなかつた方々 上田 建治 氏 ----- レースを司會して總務委員長の仕事をお願ひしたいと鈴木君から言つてきた。全貸一ヨリスミカルに任せ出来る様 manage やつて下さい。ソレで race の技術的方面は鈴木氏も、manage 又は arrangement の方は上田氏に一任の形で各艇はその手足を補ふことになりませう。西君で決まれば、ソレハ 鈴木 氏に、起れば 宮崎 富田 中塚 氏に相談して下さい。大變結構です。岡本 尊藏 氏も三日日留で来て下さるデスネ。選手名、か北澤さんが高配下つて大会新紙上で御表示することにしています。今の處方には判りません。